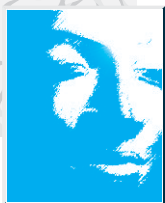




特集

# お釈迦様がものがたり ⑫ 釈迦国滅亡の危機！そのときお釈迦様は？



前回お話しましたように、マガダ国の阿闍世王子は、父王を幽閉しますが、母妃のひそかな努力により殺すことまではできません。

## 阿闍世の目覚め

王位を継いだ阿闍世は、ある日、皮膚病にかかった自分の子どもの患部に口をつけて膿を吸い出します。その様子を見た母妃が言いました。

「あなたも子どもの頃皮膚病にかかりました。そのとき父上も口で膿を吸い出されたのです」

それを聞いた阿闍世は、父王の自分

への愛を知って、牢獄から救い出そうと駆けつけます。けれども一足遅く、父王は亡くなっていました。

阿闍世は、父王を殺したという罪悪感から罪を悔い、懺悔して、お釈迦様に帰依しました。お釈迦様は大慈悲をもつて受け入れました。阿闍世は、父を死に追いやってはじめて、ようやく信仰に目覚めることができました。

阿闍世王はインド各地を征服し、ついには全土を統一しました。マガダの王統は、のちにアシヨカ王に受け継がれ、アシヨカ王の庇護を得た仏教はインド全体に普及したのです。

No. 19  
2006 Winter

山崎 松山 舎  
寺南 臨

## 釈迦国の滅亡

この頃、お釈迦様のふるさと釈迦国が、隣国のコーサラ国に攻められ、滅亡の危機に瀕していました。かつてコーサラ国では、波斯匿王がお釈迦様に帰依し、釈迦族の王家の娘を妃に迎えたいと望みました。ところが釈迦族は、王家の血統が汚されると考え、身分の低い女性を王女といつわり送りました。彼女は妃となり男子を産みました。それが波瑠璃王子です。

王子はそのことを知らずに育ちましたが、あるとき釈迦国の都に行き、ひどい屈辱を受けました。王子が座った席を、「身分の低い女が産んだ子が座った」といって、ごしごし洗い清めたのです。出生の秘密を知った王子は、釈迦族を滅ぼすことを誓います。

やがて成長した王子は、父王がお釈迦様を訪問した際にクーデターを起こしました。父王を廃した波瑠璃王は、大軍を率いて釈迦国に進攻を開始しま

した。

## 因果は巡る

王の攻撃を知ったお釈迦様は、コーサラ軍の進路にあった枯れ木の下に座って待ちます。

「仏陀よ、なぜ枯れ木の下におられるのですか？ 緑濃い木の陰のほうが涼しいでしょうに」

「いえ、親族の木陰はみすばらしく見えても涼しいのです」

この言葉を聞いて、王は軍隊を引き上げました。しかし、釈迦族への恨みは消えず、再び進軍します。そして、同じようにお釈迦様に押しとどめられます。ところが三度目には、お釈迦様も釈迦国を救おうとはされませんでした。「釈迦国が滅びるのも、過去の宿縁が熟した結果であり、もはや救うことはできない」

こうして釈迦国は滅亡しました。しかし波瑠璃王も、「衆生を殺害するのは耐えられない」と戦いに参加しなかった兄を殺してしまいます。それを聞いたお釈迦様は、「波瑠璃王は七日後に滅ぶであろう」と予告します。そのとおりに波瑠璃王も亡くなり、コーサラ国も阿闍世王に滅ぼされてしまいました。因果応報の物語です。

# マトリ合同法要しめやかに

十一月十二日(日)午後一時から、がつしよう園マトリの合同法要が営まれました。

まず本堂で、浄春寺(天王寺区夕陽丘)住職の佐藤徹亮老師の法話を聞きました。老師は「いじめの問題も温暖化の問題も、根はひとつのところにあります。自分のやっていることが正しく、他人のやっていることが悪いという思い、自分を基準にした考え方が生み出したものです」

と説き起こし、「見返りを求めない仏教の心を未来に伝えていくことの大切さ」を強調されました。

法話ののち、マトリに移り、読経がしめやかに続くなかで、それぞれのご霊牌にむかって祈りをささげました。年を重ねるごとに、マトリに入会する方が増えております。合同法要に参列する方も増え、今回は二百五十人を超えました。



浄春寺住職の佐藤徹亮老師の法話(本堂)



マトリ内で営まれた合同法要

## 寺南景 百景



## がつしよう園

## マトリ

都会では、新たにお墓を作るのが難しくなってきました。お墓をどう継承していくかという問題も深刻です。今までの墓苑のあり方に疑問をお持ちの方もいらっしゃいます。そうしたお墓に対する考え方のひとつの答えが、この「がつしよう園マトリ」なのです。「マトリ」とはサンスクリット語で「母」という意味です。母なるマトリに抱かれるように、一人ひとりの霊牌が集まり、全体で大きな墳墓をかたちづくりします。宗旨・宗派、国籍、しきたりを超えて、お互いの冥福を偲び、祈りをささげることができます。「子どもがないので、お墓を継承

する人がいない」「近くにお墓を作りたいのだが」「故郷のお墓と縁遠くなっている」「友人同士でお墓に入りたい」……こんな方も安心して毎日を明るく生きていただけるよう、臨南寺が永代にわたって供養します。

一年に二回、五月と十一月に合同法要が執り行われます。荘厳で清浄な雰囲気にも包まれたマトリは、入会希望の方が絶えません。



# 宗教的心について



臨南寺 住職

## 大澤正道

先日、「無宗教で葬儀を行いたい」という方がお見えになりました。  
「無宗教」という言葉を耳にして、考えたことがあります。

本当に無宗教という人がおられるのでしょうか？  
確かに、葬儀のスタイルは変わってきました。音楽葬やお別れ会など、現代ではさまざまなスタイルで行われています。でも、そういった表面上の形は違って、故人を偲び、冥福を祈るといふ点では、どんな葬儀も一致しているのではないのでしょうか。

亡くなった人を目の前にしたときには、どんな人でも、自然に手を合わせます。これが、仏教でいう「合掌の気持ち」の現れではないでしょうか？

人間には、生まれながらにして、宗教的心が備わっていると思います。

この世に生を享けたこと、ご先祖様、ご両親に感謝することを忘れず、生活していただきたいと思えます。

## 弁財天祈禱会 新年を寿ぎ、一月十五日(月)に開催

臨南寺では、新年を祝って、一月十五日(月)、弁財天をお祀りし、『大般若波羅蜜多經』六百卷の五七八「般若理趣分」を転読いたします。

『大般若波羅蜜多經』は、大乘經典の初期に成立した經典ですが、六百年以上にわたって追加され、呪術的な要素を持つ密教の内容を含んでいます。そのため『大般若波羅蜜多經』は大きな霊力を持つとされ、ばらばらと転読するだけで、『大般若波羅蜜多經』を讀誦したと同じ功德が得られるといわれています。

わが国が安らかで穏やかでありますよう、また世界に平和が訪れますよう、そしてすべてのことがめでたく幸せでありますよう——檀信徒の皆様や参詣者の方々の無病息災、家門隆盛、家内安全を祈願する法要を行います。

弁財天は、七福神の一つで、言語、知識、音楽をつかさどり、福德・財宝を授ける神様です。古くから学問、文芸、芸能の守護神として信仰されてきました。あなたも旧い年に感謝をささげ、新しい年の幸せを祈りませんか？ お誘い合わせの上お参りください。



### □ 弁財天祈禱会 (本堂)

一月十五日(月)午前十時～十二時  
皆様の厄を払い福を招く法要を行います。甘酒の振る舞いもございませう。誘い合わせてお参りください。

### □ 彼岸会写経会

三月十八日(日)～二十三日(金)  
午前十時～午後四時  
墓苑事務所にて受け付けております。お気軽にお申し付けください。費用千円

### □ 彼岸会施食会 (本堂)

三月二十四日(土)午後一時～三時  
受付は二時半まで  
お彼岸は大自然とご先祖様に感謝する大事な時です。家族そろってお墓に参り、ご先祖様を偲び、自分が今あることに感謝いたします。

\*一月一日～三日は、墓苑事務所は閉めさせていただきます。

線香、ろうそく、花等は、本堂前で販売しております。

\*一月の早朝座禅会はお休みです。毎月第一土曜日に行っております早朝座禅会は、一月はお休みさせていただきます。

# 父を亡くして



石黒美里

私は日頃、寺務所とは別棟で仕事をしていますので、お寺に来られる皆様方とは、直接お会いすることはありません。でも、仕事をしている部屋からは皆様のお墓参りの様子をよく見かけます。

お彼岸やお盆に関係なく、日常的に大勢の方がよくお墓参りされている姿を目にしていますと、義務的な気持ちで参られているのではなく、きわめて自然な気持ちでお墓参りされていると感じます。

私事ですが、先だつて十一月に父を亡くしました。毎朝、家の仏壇に手を合わせてはいるのですが、

週末でないとお墓参りにいけないので、いつも気になっていました。

お寺では毎朝、おつとめを行います。父が亡くなったから、おつとめするときの気持ちが以前とは違ってきたように思います。ご本尊様を通して、父に、お墓参りにいけないその思いを慰められているような気がします。

最近、夜、仏壇に手を合わせ、ぼんやりしているときが、一番気持ちが安らぎます。仏様の前で手を合わせると心が落ち着くのを、初めて実感している今日この頃です。

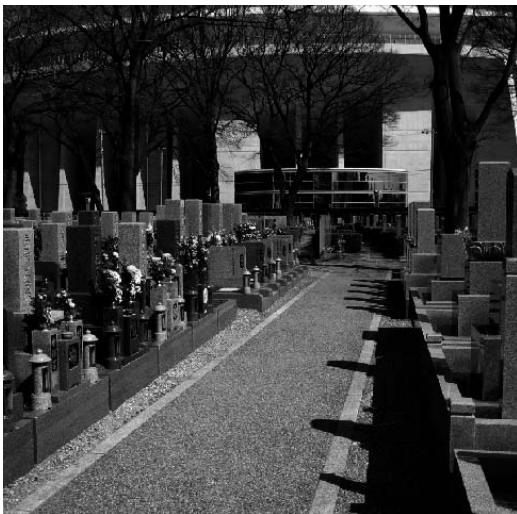
## 墓苑をご利用の皆様へ

● 手桶を花入れにしないでください。お正月は手桶が不足することがありますので、ご使用後は必ず元の場所へお戻しください。



● 開門は朝六時、閉門は夜七時です。お墓参りは午前六時～午後七時の範囲でお願いいたします。

● お墓参り以外での駐車はご遠慮ください。境内では最徐行をお願いいたします。駐車中の事故等は一切責任を負いかねます。お供物は、カラスなどに荒らされる原因となりますので、各自お持ち帰りください。



## 編集後記

家庭では児童虐待に親殺し。学校ではいじめに自殺。何ともやりきれない事件が続きます。子どもとさからみ仏の前に手を合わせる習慣があれば、こんなことにならないのと思うのは私一人でしょうか。今号の内容はいかがでしたか? ご感想をお寄せください。〈M〉

## お気軽にどうぞ

早朝坐禅会

毎月第一土曜日 午前六時半～  
※一月・八月は、お休みさせていただきます。

写経会

毎月二十日 午前十時～午後四時  
写経料・千円

※いずれも事前のお申し込みが必要です。

「ほ～っと」19号

平成18年12月

編集・発行：<sup>りょうがりん</sup> 椋伽林「ほ～っと」  
編集室

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-32

☎ 0120-711-493

TEL 06-6698-1001

FAX 06-6697-3330

Eメール：rinnanji@abeam.ocn.ne.jp

ホームページ：http://www.rinnanji.com